

（第1面）

## 産業廃棄物処理計画書

2024年 05月 31日

静岡県知事殿

提出者

住所 静岡県富士市大野新田332番地の1

氏名 興和株式会社 富士工場

篠原 清

（法人にあつては、名称及び代表者の氏名）

電話番号 0545 - 33 - 0596

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	興和株式会社 富士工場		
事業場の所在地	静岡県	富士	市 大野新田332番地の1
計画期間	2024/4/1 ~ 2025/3/31		
当該事業場において現に行っている事業に関する事項			
① 事業の種類	化学工業		
② 事業の規模	製品出荷額 208億円/年		
③ 従業員数	356名（2024年5月1日時点）		
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	燃え殻：場内焼却→燃え殻→中間処理委託・混合→最終処分場・建材製造 汚泥：中間処理委託・焼却→サーマルリサイクル・焼却灰→最終処分場・建材（リサイクル） 有機性汚泥：工程排水→自社内脱水→中間処理委託・肥料化 廃プラスチック①：中間処理委託・焼却→サーマルリサイクル・焼却灰→最終処分場・建材（リサイクル） 廃プラスチック②：中間処理委託・RPF製造（燃料化） ガラスくず：ガラス瓶（色分別）→中間処理委託・粉碎→ガラス原料		

（日本産業規格 A列4番）

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和 5 年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	排出量
	燃え殻	2.230 t
	汚泥（泥状のもの）	286.637 t
	有機性汚泥	547.849 t
	廃プラスチック類	158.362 t
	乾電池	0.053 t
	ガラスくず	22.430 t
	蛍光灯	0.214 t
	複合材	0.490 t
	一般廃油	0.240 t
	(これまでに実施した取組) ・生産効率を上げ排出量を減量化する。 ・分別、処分先の見直しによるリサイクル（埋立量の削減）を継続実施。	

②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	排出量
	燃え殻	2.000 t
	汚泥（泥状のもの）	250.000 t
	有機性汚泥	500.000 t
	廃プラスチック類	150.000 t
	乾電池	0.050 t
	ガラスくず	22.000 t
	蛍光灯	0.150 t
	複合材	0.500 t
	一般廃油	0.200 t
	（今後実施する予定の取組） ・生産量は前年度に対し大きく変化しないことが予想され、廃棄量も変化しないことが予想される。 ・生産効率を上げ排出量を減量化する。 ・分別、処分先の見直しによるリサイクル（埋立量の削減）を継続実施。	
	産業廃棄物の分別に関する事項	
①現状	（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 焼却処分される廃プラスチック類の中でもRPF原料になる物はRPFとして分別するよう品目を追加している。（効率のよりサーマルリサイクルへの取り組み）	
②計画	（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 廃プラスチック類の中にまだRPF原料にできる品目があると思われRPF原料の品目をさらに追加していく。	

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項		
①現状	【前年度（令和 5 年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量
		t
		0.000 t
		0.000 t
		0.000 t
		0.000 t
		0.000 t
		0.000 t
		0.000 t
		0.000 t
		0.000 t
		0.000 t
(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量
		t
		0.000 t
		0.000 t
		0.000 t
		0.000 t
		0.000 t
		0.000 t
		0.000 t
		0.000 t
		0.000 t
		0.000 t
(今後実施する予定の取組)		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（令和 5 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量
	有機性汚泥	0.000 t	547.849 t
		0.000 t	0.000 t
		0.000 t	0.000 t
		0.000 t	0.000 t
		0.000 t	0.000 t
		0.000 t	0.000 t
		0.000 t	0.000 t
		0.000 t	0.000 t
		0.000 t	0.000 t
		0.000 t	0.000 t
	(これまでに実施した取組) ・ 自社設備（脱水機）による減量化 ・ 生産効率を上げ排出量を減量化する。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量
	有機性汚泥	0.000 t	500.000 t
		0.000 t	0.000 t
		0.000 t	0.000 t
		0.000 t	0.000 t
		0.000 t	0.000 t
		0.000 t	0.000 t
		0.000 t	0.000 t
		0.000 t	0.000 t
		0.000 t	0.000 t
	(今後実施する予定の取組) ・ 自社設備（脱水機）による減量化 ・ 生産効率を上げ排出量を減量化する。		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

	【前年度（令和 5 年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量
①現状		0.000 t
		0.000 t
		0.000 t
		0.000 t
		0.000 t
		0.000 t
		0.000 t
		0.000 t
		0.000 t
		0.000 t
		0.000 t
(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量
		0.000 t
		0.000 t
		0.000 t
		0.000 t
		0.000 t
		0.000 t
		0.000 t
		0.000 t
		0.000 t
(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

【前年度（令和 5 年度）実績】					
産業廃棄物の種類	①優良認定処理業者への処理委託量 ②再生利用業者への処理委託量 ③認定熱回収業者への処理委託量 ④認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量				全処理委託量 (t)
	① (t)	② (t)	③ (t)	④ (t)	
燃え殻	2.230	2.230	0.000	0.000	2.230
汚泥（泥状のもの）	283.257	282.550	0.276	258.450	286.637
有機性汚泥	0.000	0.000	47.020	0.000	47.020
廃プラスチック類	158.362	158.362	0.000	158.362	158.362
乾電池	0.053	0.053	0.000	0.000	0.053
ガラスくず	0.000	22.430	0.000	0.000	22.430
蛍光灯	0.214	0.214	0.000	0.000	0.214
複合材	0.490	0.490	0.000	0.000	0.490
一般廃油	0.000	0.240	0.000	0.000	0.240
①現状 （これまでに実施した取組） ・生産効率を上げ排出量を減量化する。 ・分別、処分先の見直しによるリサイクル（埋立量の削減）を継続実施。					

		【目標】				
産業廃棄物の種類	①優良認定処理業者への処理委託量 ②再生利用業者への処理委託量 ③認定熱回収業者への処理委託量 ④認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量					
	① (t)	② (t)	③ (t)	④ (t)	全処理委託量 (t)	
燃え殻	2.000	2.000	0.000	0.000	2.000	
汚泥（泥状のもの）	250.000	250.000	0.000	250.000	250.000	
有機性汚泥	0.000	0.000	45.000	0.000	45.000	
廃プラスチック類	150.000	150.000	0.000	150.000	150.000	
乾電池	0.050	0.050	0.000	0.000	0.050	
ガラスくず	0.000	22.000	0.000	0.000	22.000	
蛍光灯	0.150	0.150	0.000	0.000	0.150	
複合材	0.500	0.500	0.000	0.000	0.500	
一般廃油	0.200	0.200	0.000	0.000	0.200	
(今後実施する予定の取組) ・生産量は前年度に対し大きく変化しないことが予想され、廃棄量も変化しないことが予想される。 ・生産効率を上げ排出量を減量化する。 ・分別、処分先の見直しによるリサイクル（埋立量の削減）を継続実施。 焼却処分される廃プラスチック類の中でもRPF原料になる物はRPFとして分別するよう品目を追加していく。（効率のよりサーマルリサイクルへの取り組み）						
②計画						
※事務処理欄						





(第6面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
  - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
  - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
  - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。